



古河地区ケアマネだより

第 76 号

茨城県介護支援専門員協会古河地区会 事務局：古河市社会福祉協議会

令和 4 年 12 月発行 TEL:0280-47-0150 FAX:0280-48-0265 HP URL:http://www.koganet.ne.jp/~care/

茨城県介護支援専門員協会古河地区会 令和 4 年度第 2 回研修会

令和 4 年 10 月 15 日（土）茨城県介護支援専門員協会古河地区会第 2 回研修会が開催されました。古河地区会としては初めての Zoom でのグループワークを含めた研修となり、当日 47 名のケアマネジャーのご参加をいただくことができました。

研修テーマは「対人援助技術（インテーク・アセスメント・モニタリング・ご家族の相談等）の視点」～カウンセリング・コーチング・スーパービジョンの技術を活用する～として、茨城県介護支援専門員協会副会長 佐藤二郎氏よりご講義いただきました。

佐藤氏は最初に言いました。「皆さんは研修で理屈・理論はすごく教わります。例えばスーパービジョンは何度も何度も研修に出るので理論・理屈は皆さん、頭に入っているが実際に出せていないことが多いです（アウトプットする場面がない）。理屈はすごく教わっているが研修中に行うアウトプットは 2～3 回程度です。私もカウンセリング・コーチング等の研修を受けて、実際にできていないとすごく感じました。他の人の評価を受けることの大切さ（フィードバック）。感じたことをそのまま返す、良いとか悪いとかではなく見ていてどう思ったか。普段ありのままやる素の状態を、お互いに見る研修を行います」。

＜グループセッション 2：アンケート結果より（20 件の回答）＞



1. バイザーとしてバイジーの言葉にならない部分を聞き出すことができた（20%）
2. バイザーとしてバイジーの言葉にならない部分を聞き出すことができなかった（25%）
3. バイジーとしてバイザーは信頼できる相談者と感じた（50%）
4. バイジーとしてバイザーは信頼できる相談者とは感じなかった（5%）

＜北関東ブロック研修大会（2020+3 全国大会プレ大会）案内＞

開催日：2023 年 2 月 18 日（土）Zoom にて 13：30～16：40

テーマ：次の時代へのケアマネジメントの進化・深化～コロナ感染症総括、介護支援の本質と期待～

プログラム：

- ① 日本協会活動報告 介護保険改訂の動向 日本協会常任理事 能本守康
- ② コロナ感染症総括 得られた教訓・再生する連携力 茨城県会長 赤荻栄一
- ③ 介護支援専門員への期待とエール 栃木県会長 大山典昭
群馬県会長 大澤 誠
茨城県会長 赤荻栄一

参加申し込み：<https://forms.gle/WTQeeErS5HM3pi868>（2 月 3 日締め切り）

問い合わせ先：茨城県介護支援専門員協会 ibaraticare2@room.ocn.ne.jp

対人援助技術（インテーク・アセスメント・モニタリング・ご家族の相談等）の視点
～カウンセリング・コーチング・スーパービジョンの技術を活用する～

3人1グループになり、バイザー・バイジー・観察者に分かれ研修を行いました。



- 1 CM⇒スーパーバイザー
- 2 利用者⇒スーパーバイジー
- 3 観察者



内容

CM 主導で話が進み、利用者の話を CM が要約して戻します。「次に利用者が正確に話を CM がキャッチしてくれていると思うのか」もしくは、「話を受け止めてくれない・伝わらないと利用者と思うか」、「その状況を観察者が見てどう感じたか」という観察者の適切なフィードバックが研修のレベルを決めます。

※面接がダラダラとならないために⇒面接内容を要約して戻す。CM が正確にキャッチしてくれたと思えば、内面に一歩深く踏み込んだことを話してくれるかもしれない。

逆に要約して戻した内容に違いがあったら、「この CM はあまり自分の事を受け止めてくれない・伝わらないかもしれない」と利用者が思ってしまい話が深まらない。

セッション① 朝、起きてからここに来るまでの出来事をどの部分でもいいので要領よく報告する練習

朝、起きてからの経緯を話す人もいれば、変わった出来事を重点的に話す人もいる。観察者がどう感じたか。

セッション①での振り返り

- 観察者の所で言うと、利用者役の話を CM 役が上手に引き出す所が分かりやすかった。Zoom だと目線が合わないというのがあり、話を聞く時に目を合わせたり、外したりする事ができると良いと思う。
- 利用者役が話した事を、きちんと CM 役がまとめて話をしていたり、優しく認めている所がさすがだなと思った。
- 利用者の話を 3 分間で聞いて 1 分間で返すというよりも聞きながら質問してキャッチボールしながら返す、少し膨らませて質問として返すという事を普段やっているんだなと思った。

適切なケアマネジメント手法の3ポイント

①あたり ②抜け漏れ ③共通言語

普段の業務の中で皆さんは「①あたり」をつけて仕事をされています。その行動を齊木 大先生はポジティブに捉えています。アセスメントをいい加減にしがちで業務に取り組んでいるのはネガティブな評価が多かったですが、我々の仕事は見切り発車で仕事を進めていくしかありません。杓子定規にインテーク・アセスメント・プランニングというのはとてもできません。皆さんは何十件も抱えていて全ての物事は動いて変化しています。

新規のAさんが入ってきてしっかりアセスメントを行う。今まではそれが良しとされていたかもしれませんが、ベテランは「あたり」を付けて仕事している、だから素晴らしいと言ってくれています。だから適切なケアマネジメント手法をしっかりとやってみましょう。

まずは、インテークの段階・アセスメントの段階で「あたり」をつけてベテランは動いています。ただしその中で「②抜け漏れ」が出がちです。その「抜け漏れ」をカバーするのが適切なケアマネジメント手法の「基本ケア」「疾患別ケア」です。「抜け漏れ」がないかチェックシートを活用してみましょう。

また、多職種の方々が集まってこの適切なケアマネジメント手法を様々な角度から検証しています。

例えば「③共通言語」として、基本ケアの大項目のあの部分、中項目のあの部分でこんなことが書いてあったと話すとなりがなくなるのではないのでしょうか。

あとは基本ケアのシート・疾患別のケアのシート（非常に細かいシート）を見て、抜け漏れがないか確認してください。

セッション② 各CMが普段使用しているフェイスシート・アセスメントシート・モニタリングシート等を置き、主に生活史を埋めていく練習

生活史をどこから書くか（CMを引き受けた時点、病気発症の時点、出生の時点）。心がけているのに認知症の方・意思疎通が出来なくなってしまった方に対して、もっと生活史を聞き取ればよかったと思う事がある。聞き取るポイントは新規の本当に最初の時と引継ぎの間際の時。どこで生まれてどこで育ったのか、どんな形でどんな仕事をしていたのかは大事です。たとえば銀行員で生真面目・自由業で自由奔放で生きてきた方とは、色んな価値観が違うのでその方に合った対応ができます。

セッション②での振り返り

- ・バイザーの役をやった時に、仕事上バイザーとして生活歴を聞く側でしかいなかったのでは聞かれる立場ではこんなにも感情が違うのかと思った。聞かれる側の立場だということ風になるという事は経験してみないと分からなかった。これも回数を重ねると逆に聞かれる立場の身になって質問ができるようになると思うので日々の訓練だと思った。

Koga care manager

・バイジー役として聞かれた時に感じたのが「ここの所をもう少し聞いてほしかった」という事だったので、聞き手になった時にどのように感じ取って掘り下げていけるのかも技術が必要だと感じた。観察者として感じたのはとても話し方がゆっくりの人がいて、話すスピード、間合いの取り方も話す相手にとって大事なんだと感じた。

ケアマネジャーの仕事について

私は、以前介護老人保健施設の介護の現場と施設ケアマネとして 20 年働いていましたが体調を崩してしまい心機一転、今度はご自宅での生活全般のサポートをご利用様がご自宅で一日も長くその人らしく元気に笑顔で生活ができるお手伝いがしたいと思い居宅ケアマネジャーとなりました。

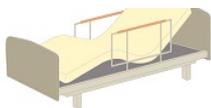
ケアもものケアマネジャーとして勤務させて頂き、利用者様とご家族との信頼関係のつくり方、多職種連携の大切さ、居宅のケアマネジャーとしての在り方等を毎日、ドキドキと新鮮な気持ちで学ばせて頂き充実の日々を過ごしています。これからも、先輩方の元で経験を積み、関連事業所様のお力添えも頂きながらケアプランセンター・ケアももに貢献していきたいと思っております。今後とも宜しくお願い致します。

ケアプランセンターけあもも 竹中満久

○福祉用具お気軽にご連絡ください○

KSS 株式会社三和サクセス

茨城県古河市仁連 1493-25
TEL:0280-76-2558
FAX:0280-76-2495



ウェルケアシステム株式会社

茨城県古河市上辺見 2826-2
TEL:0280-33-6330
FAX:0280-33-6339



編集後記

初めて Zoom を使い、グループワークの研修を行いました。グループワークの途中で画面がフリーズしてしまったり、電源が落ちてしまったり、周りの音を大きく拾ってしまい、何を言っているのか聞き取りにくかった等の小さなトラブルはありましたが、大きな問題なく研修を終える事ができました。

また、バイジー・バイザー・観察者のそれぞれの視点に立った研修を行い、ケアマネジャーとしてそれぞれの気付きを得る事が出来ました。

今後も、研修を継続することにより、質の高いケアマネジメント業務が行えるよう学びを深め、同時に交流の場を設けていくことができればよいと思います。